



FK 建築 株式会社
代表取締役

前田 拓弥

防水工事をメインで手掛けている前田社長。

人の生活に欠かせない仕事だと感じ、業界に飛び込んだ。

生活をしていて、家が雨漏りしたらそこに住まう人々は不安に思うだろう。

そんな不安を払拭すべく社長は、「親切・丁寧・安心」を心がけている。

親切な対応、丁寧な施工を行い、安心してご自宅に住み続けてほしい——

社長が守っているのは、住まいとお客様の笑顔だ。

「不安な気持ちを払拭し、 お客様の生活を支えたい」



俳優

大沢 樹生

special X interview

代表取締役

前田 拓弥

確かな技術でお客様に安心を 地域に頼られる「まちの防水屋さん」

「親切・丁寧・安心」をモットーに各種防水工事などを手掛けている『FK建築』。「まちの防水屋さん」として地域に欠かせない存在だ。同社を率いる前田社長は、周囲の人々を大事に、着実に成長を重ねている。本日は、俳優の大沢樹生氏が社長のもとを訪問し、様々なお話を伺った。

—まずは、前田社長の歩みから順を追って伺います。

神戸市が地元で、少年時代はバイクが好きでしたね。現在手掛ける防水業界には、16歳の時に入りました。きっかけは、中学生の時に実家を改修したことですね。足場屋さんやペンキ屋さんは聞いたことがありましたが、大体想像がつかず。しかし、防水屋さんというのはイメージできず、何をしているのか気になったんですね。それで聞いてみると、雨漏り

などを直す仕事だと分かりました。そして知り合いのつながりで業界に入ったんですよ。

—あまり目立つお仕事ではないかと思いますが、少年だった社長は防水工事に目をつけられたと。

ええ、雨漏りがすると、人は家に住むことができませんから、一番大事な仕事だと感じたんです。そして、8年ほどそちらで修業させてもらい、24歳の時に独立しました。

—独立には、どのような思いがあったのでしょうか。

経験を積むにつれて徐々に独立を考えるようになりまして、子どもができ、家族を養いたいという思いから独立を決意したんです。妻には「事業を大きくして、子どもが引き継げるような会社になりたい」と伝えました。最初は悩んでいましたが、後に私の背中を押してくれ、独立できました。現在、妻も手伝ってくれていて、本当に感謝しています。

—24歳と比較的お若くして独立されましたが、これまでを振り返ってみていかがでしょうか。

金銭的にも精神的にも厳しい時がありました。当然のことながら、責任は全て私にかかってきますからね。ただ、その分意識が大きく変わり、成長できたと感じています。一従業員のように誰かに指示されて仕事をするわけではなく、お仕事をいただくお客様たちとのやり取り、関係性などもきちりしなければなりません。また、従業員も雇用していますから、彼らの家族たちの生活も守るために、来月・再来月といった先のことまで見据えて行動する必要がありますからね。そのように、今なお経営には難しさを感じていますが、お客様と従業員、家族に感謝し、歩んでいだけだと感じています。—とても大事なことですね。独立されて多くの気づきを得られたと。では、『FK建築』さんの事業内容をお聞かせ願えますか。

各種防水工事をはじめ、外壁補修工事、シーリング工事、塗装工事一式などを手掛けております。スタッフは6名です。年齢層は幅広く、若手から上は50代の



職人も活躍してくれています。妻が手伝ってくれているお陰で、スタッフたちと共に現場に出て、直接彼らの仕事ぶりを見ることができています。

—奥様は大活躍ですね。兵庫県内でも同業他社は多くあると思いますが、御社の強みをお聞かせ願えますか。

お店の入り口にも書いていますが、「親切・丁寧・安心」をモットーにしています。雨漏りなど、お客様は何かにつけて当社にご依頼下さいます。不安な時もあるかと思いますが、まずは親切に。そして丁寧な施工を心がけ、安心してご自宅に住み続けてほしい。そんな思いがあります。

—「まちの防水屋さん」として、地域の人々から頼られていることでしょうか。

最後にこれから先の目標をお聞かせ願えますか。

法人化を果たし、「これからだ！」というタイミングで新型コロナウイルスが流行し、仕事に影響が出ています。ただこれまでも困難な時期はありましたから、これまで通り、当社と関わる周囲の人々とのつながりを大事に歩いていだけだと考えています。また、将来的には、防水以外の仕事もこなせる工務店のような業態になりたいと思っています。そうすることで、当社にご依頼いただければ、何でも対応できるようにして、より地域の方々に頼りにされる存在になりたいと思っています。

—本日はありがとうございました。
(2020年8月取材)

FK建築 株式会社

兵庫県神戸市長田区御屋敷通 6-2-13-1F



「お客様やスタッフ、奥様—周囲の方々への感謝の気持ちを述べられていた前田社長。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、人々の生活は大きく変容し、御社にも何らかの変化が訪れるかもしれませんが、周囲の方々を大事に歩いてほしいですね。陰ながらではありますが、応援しています。」
大沢 樹生・談

column

職人氣質な人柄

▼対談では、前田社長のことについて、公私共に支えている奥様からもお話を伺うことができた。「スタッフたちに仕事を教える時など、職人氣質であり上手にお話はできないのですが、その分、仕事を間近で見ってもらうこと—自分の背中、姿勢で示しているの、皆ついてきてくれるのだと思います」と。そこから、寡黙ではあるが、誠実な人柄や仕事に対する熱、真摯な姿勢が伝わってくるのだらう。

▼また社長は「普段言っているわけではないが、スタッフを宝だと思っていて、それだけは忘れないようにしている」と語ってくれた。口に出すことは簡単だ。ただ、それよりも大切なのは、実際に行動に移せるか、実現できるかどうかである。社長の寡黙ささえも魅力だと感じることもできた対談であった。